

片岡啓介さん(看護師)

2017年度入職
札幌保健医療大学卒業

3階東病棟勤務
(小児科病棟)



Q.市立札幌病院を就職先にした理由は？

地方公務員となり、安定していると思いました。またインターンシップでスタッフ間の連携・協働のバランスが取れていると感じました。小児看護実習でお世話になった病院・病棟であり選択しました

Q.看護をされていてうれしい！と思うときはどんな時？

とても辛そうに入院してきた患児が元気になって退院していく姿は何度体験しても嬉しいです。患児もそうですが、未就学児は家族も一緒に付き添って入院していただくので家族への声かけも忘れないようにしています。そして、喜びの連鎖が看護師を続けていて良かった、もっと患児のためにできることを増やしたいと思える、僕の原動力になっています

Q.入職して2年目になり、どうですか？

公務員として安定した生活を送ることができることにとても感謝しています。同時に市立札幌病院で働く看護師として、市民の方々が安心して生活していけるように使命と責任を感じながら日々働いています。繁忙度が高くなると、スタッフ間で有効なコミュニケーションがどうしても取れないと思うときもあります。しかし、スタッフ全員が患者さん第一に看護をすることを目標に動いていて、自発的に情報共有や意見交換をする等、かっこいいと思うことが多いです。

3階東病棟は、小児科が主病棟であり、入院生活を送る患児が治療を受けながらも成長発達を阻害しないように、スタッフ全員で話し合いながら最適なケアを実践しているよう取り組んでいる部署です。スタッフは明るく元気で優しい看護師が多いです。そしてスタッフ全員が、患児が元気に退院できるように必要な看護を模索し、時には愛情も込めて

(笑) 協働しています。また看護実践でできたことを認めてくれるスタッフも多いのでやりがいを感じながら働くことができます。新人を育てようと手を差し伸べてくれるスタッフがたくさんいるのでお勧めです！

Q.働いていて不安なとき、困ったときはどうやって乗り越えたの？

看護師 1 年目のときは患者さんの病態の理解もままならずどのように関わってコミュニケーションを取れば良いかわからないことが多々ありました。実は患者さんとのコミュニケーションは学生の頃から苦手でした。

しかし、わからない点については何でも聞きやすい先輩看護師が多くいるので相談させていただき、知識を増やしていきました。すると“こっつて患者さんはどのように考えているのかな…”と疑問に思うことが増えてきて、構えるのではなく日常会話から患者さんとコミュニケーションをとることができるようになっていきました

就職を考えている看護学生さんに一言

市立札幌病院で働く看護師には札幌市の職員としての使命と責任があるので、大変な仕事であることには変わりありません。しかし、地域を支える高度急性期病院で 1 人の看護師として働いていることが私の自信になっています。たくさんある病院の中で就職先を選ぶ基準は人それぞれですし、選択も難しいと思います。休むときはしっかり休みますが、病院に来て、白衣をきればそこには患者さんのために何かできることはないかと模索し続けられる看護師がたくさんいます。

“急性期病院だから、粘り強くて辛抱強くて勉強もできなきゃだめ？”

—いいえ、そんなことはありません！

患者さんを第 1 に考え、小さなことでもいいから「何かしてあげたい」そう考えられる看護師であること、それが一番大切だと思います。看護を必要としている患者さんに今自分ができること、それがたとえ小さなことでもいいんだと思います。

ぜひ、一緒に看護を必要としている人に手を差し伸べてみませんか！